GHS混合物分類判定システム
製品情報・化学物質情報
インポート・エクスポート
操作説明書

Ver.1.2

目次

１．はじめに ..... - 1 -
２．製品情報のインポート・エクスポート ..... - 1 -
２．１．製品情報のインポートの流れ ..... - 1 -
２．２．製品情報のインポート ..... - 1 -
２．２．１．製品の組成の物質番号をチェック ..... - 1 -
２．２．２．製品情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)の作成 ..... - 3 -
２．２．３．製品情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)のインポート ..... - 7 -
２．３．製品情報のエクスポート ..... - 11 -
３．化学物質情報のインポート・エクスポート ..... - 15 -
３．１．化学物質情報のインポートの流れ ..... - 15 -
３．２．化学物質情報のインポート ..... - 15 -
３．２．１．化学物質情報の物質番号のチェック（化学物質情報の更新を行う場合） ..... - 15 -
３．２．２．化学物質情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)の作成 ..... - 17 -
■「臓器種・ばく露経路一覧」 ..... - 22 -
３．２．３．化学物質情報インポート用のテキストファイルのインポート ..... - 26 -
３．３．化学物質情報のエクスポート ..... - 30 -
４．製品情報エクスポート結果を化学物質情報にインポート ..... - 33 -

１．はじめに

本書は GHS 混合物分類判定システムで扱う「製品情報」「化学物質情報」それぞれを、インポート、エクスポートするための操作説明書になります。

２．製品情報のインポート・エクスポート

本システムで GHS 分類判定を行う製品情報をテキストファイル(TSV 形式)にて、インポート、エクスポートを行う事ができます。インポート、エクスポートを使用することで、製品情報の新規登録、登録済みデータの更新を行う事ができます。ただし、「分類判定」については、インポートされませんので、製品毎に「分類実行」を行う必要があります。

製品情報をインポートする場合は、インポートする製品に含まれている組成情報が、事前に化学物質情報として登録されている必要があります。登録されていない場合は、本システム操作説明書の「5.2.1 化学物質情報の登録」か、本書後述の「化学物質情報インポート」を先に行って下さい。

２．１．製品情報のインポートの流れ

(1)製品の組成の物質番号をチェック。

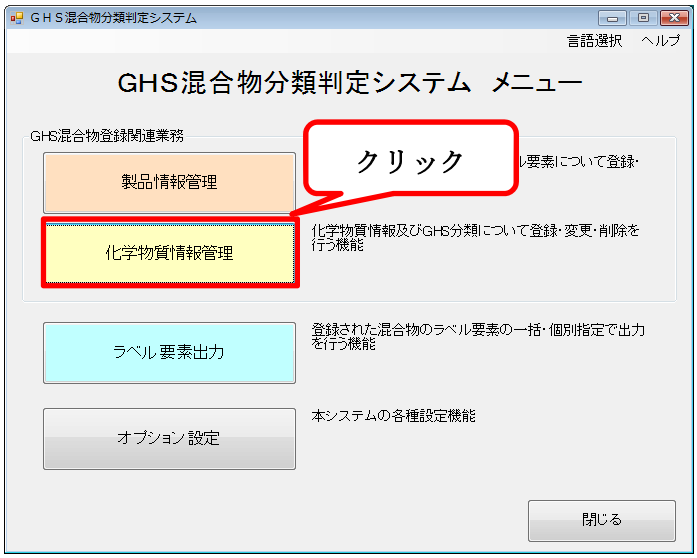
(2)製品情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)の作成。

(3)製品情報インポート用のテキストファイルのインポート。

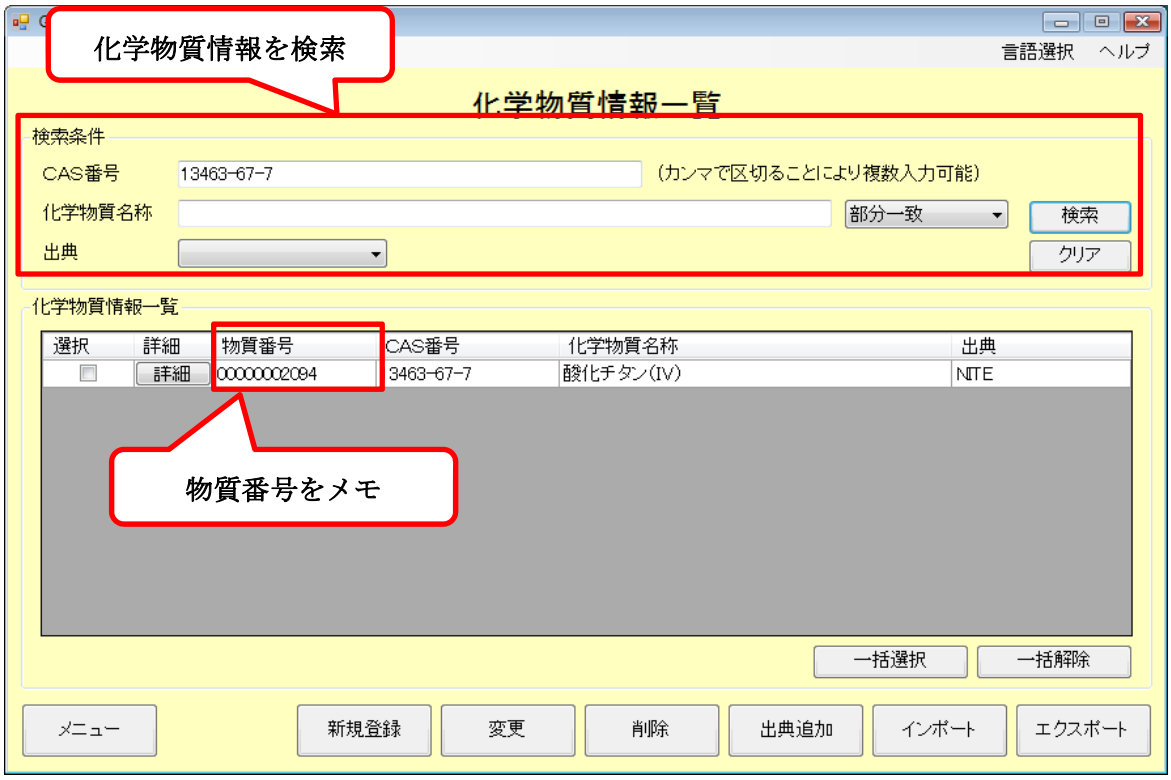
２．２．製品情報のインポート

２．２．１．製品の組成の物質番号をチェック

(1)「GHS 混合物分類判定システム　メニュー」から「化学物質情報管理」をクリックして、化学物質情報画面を表示します。



(2)製品情報の組成に含む化学物質を検索し、「物質番号」をメモします。



製品情報の組成全てについて、事前に「物質番号」をメモしておきます。

２．２．２．製品情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)の作成

製品情報インポート用のテキストファイルは、Excel を利用して作成すると便利です。本書では、Excel を使用した作成方法にて説明いたします。

製品情報インポート用のテキストファイルは、以下のフォーマットに従って作成します。

製品情報インポート用テキストファイルのフォーマット

バージョン情報							
項目番号			データ部分 ※必須項目（必須項目以外は空欄可、行削除可）				
大	中	小					
P※	1※	1※	製品番号	ユーザ管理番号	製品名称※	判定ルール※	
P	2	1	国連番号	物理的状態	引火点	初留点	動粘性率
P	3	1	備考 1	備考 2	備考 3	備考 4	
S※	1※	1※	物質番号※	CAS番号	化学物質名称	含有率※	出典※
S	2	1	物質番号	CAS番号	化学物質名称	含有率	出典
S	3	1	物質番号	CAS番号	化学物質名称	含有率	出典

解説

■バージョン情報

インポートファイルのバージョン情報を半角数字で「1.0」を入力します。

■項目番号

大：情報の種別を表す記号を入力します。製品情報のインポートでは、「P」「S」のみ指定します。

P：製品基本情報

S：製品組成情報

中：大項目の連番を入力します。

大項目が「P」の場合は、1～3 が固定です。

大項目が「S」の場合は、製品組成の数に合わせて 1 から連番を入力します。

小：製品情報では、「1」を固定で入力します。

（P-1-1 と S-1-1 は情報が無くても必須になります。それ以外の行は情報がない場合、行自体を削除しても取り込み可能です。）

■データ部分

製品番号	：	新規で登録する場合は、空欄とする。 登録済みの製品情報を更新する場合は、対象の製品番号を指定する。
ユーザ管理番号	：	任意の管理番号(半角英数字のみ)を入力します。
製品名称	：	登録する製品名称を入力します。
判定ルール	：	GHS 分類判定ルールとして半角英字大文字で「UN」か「JIS」を入力します。
国連番号	：	半角数字で入力します。
物理的状態	：	「気体」「固体」「液体」「エアゾール」のいずれかを入力します。 空欄の場合は「気体」として登録されます。
引火点	：	半角英数字(小数点可)で入力します。
初留点	：	半角英数字(小数点可)で入力します。
動粘性率	：	半角英数字(小数点可)で入力します。
備考 1～4	：	製品基本情報の備考欄の内容を入力します。 改行毎に列を区切ります。※1～4 は、備考欄の行番号を指しています。
物質番号	：	化学物質情報の検索でメモした番号を入力します。 ゼロ詰め 11 桁の半角数字を入力します。
CAS 番号	：	半角数字と半角「-」を入力します。 インポート時に、物質番号に登録された CAS 番号が登録されます。
化学物質名称	：	化学物質名を入力します。 インポート時に、物質番号に登録された化学物質名称が登録されます。
含有率	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。「%」等の単位記号は入力不可です。
出典	：	本システムのオプション設定に登録されている出典を入力します。

上記の各フォーマットに従った入力例(Excel)

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	'1.0							
2	P	1	1	'00000000002		Uso White	JIS	
3	P	2	1	1263	液体	-4	77.1	
4	P	3	1					
5	S	1	1	'00000002783		ポリエステル樹脂	50	自社2
6	S	2	1	'00000002765	'108-88-3	トルエン	25	NITE
7	S	3	1	'00000002779	'111-15-9	エチレングリコールモノエチ	5	NITE
8	S	4	1	'00000002094	'13463-67-7	酸化チタン(IV)	35	NITE
9	S	5	1	'00000002071	'141-78-6	酢酸エチル	15	NITE
10								

【注意】

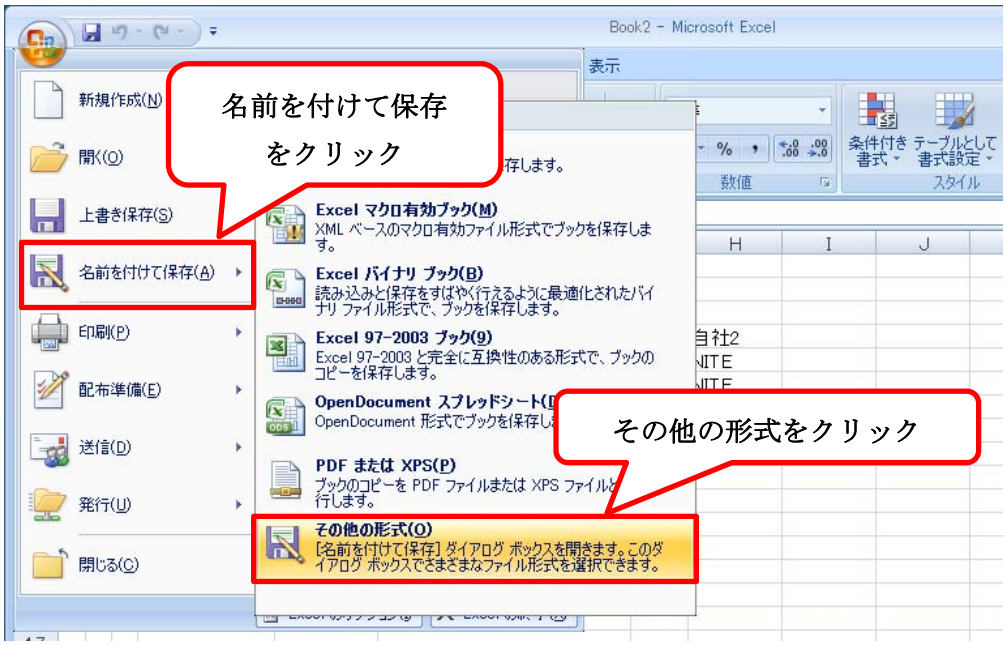
Excel で入力する場合、「バージョン情報」「製品番号」「物質番号」「CAS 番号」が自動変換される場合があるので、先頭にシングルクォート「'」を付与して入力する必要があります。

【参考】複数製品を同時に入力する場合

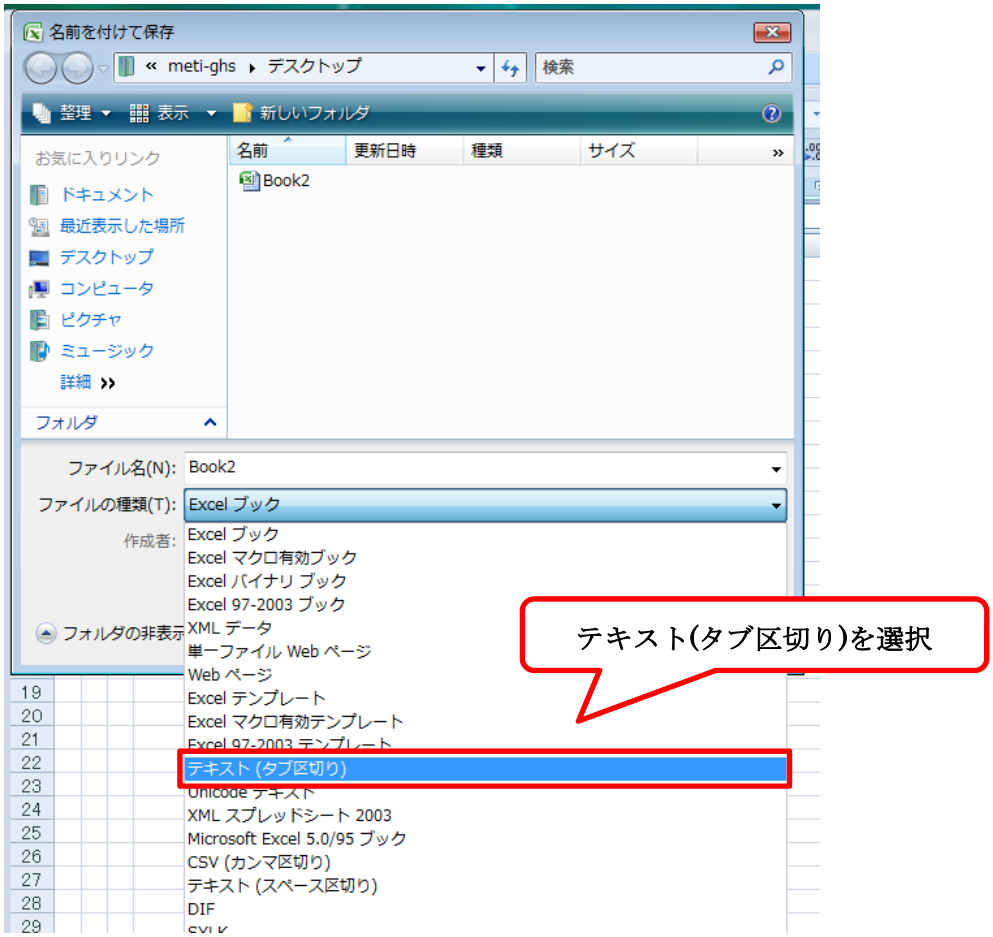
1 製品の入力に続けて、バージョン情報を除く、大項目「P」～大項目「S」を繰り返し入力します。

Excel で作成した製品情報をテキストファイルとして、保存します。

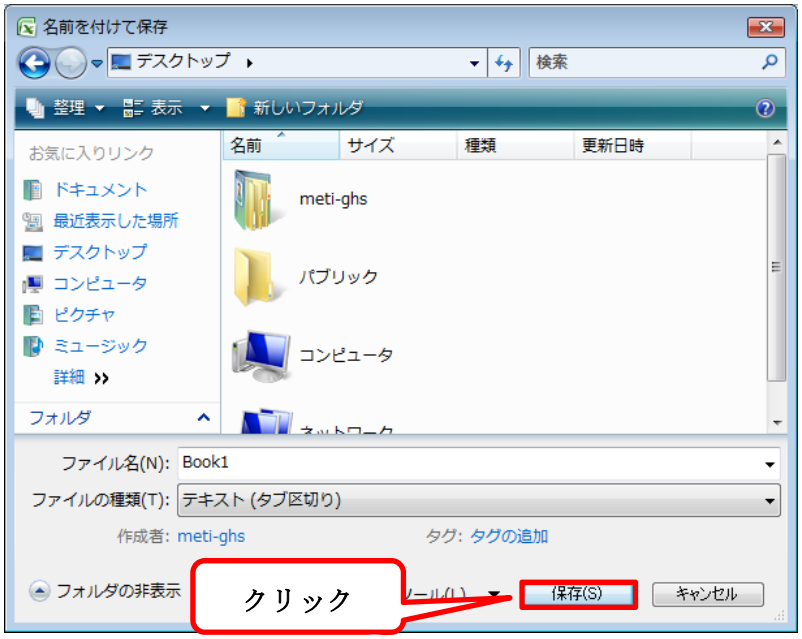
「名前を付けて保存」→「その他の形式」をクリックします。(画像は Excel 2007 の場合)



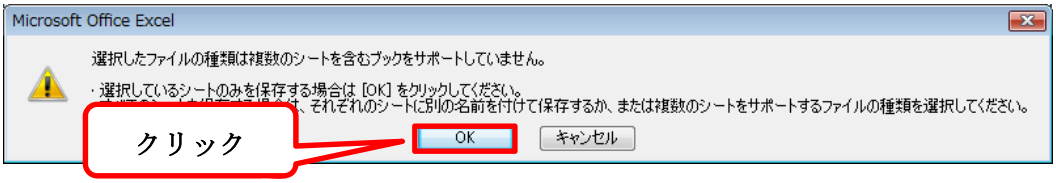
「ファイルの種類」のタブから「テキスト(タブ区切り)」を選択します。



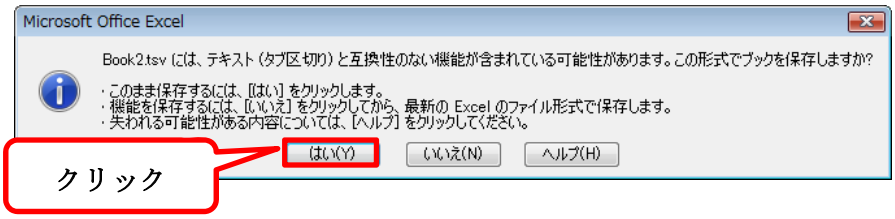
ファイル名を指定して「保存(S)」をクリックします。



ブックをサポートしていない旨のメッセージが表示されますが、「OK」をクリックします。



続いて、互換性が無い旨のメッセージが表示されますが、「はい(Y)」をクリックして保存します。

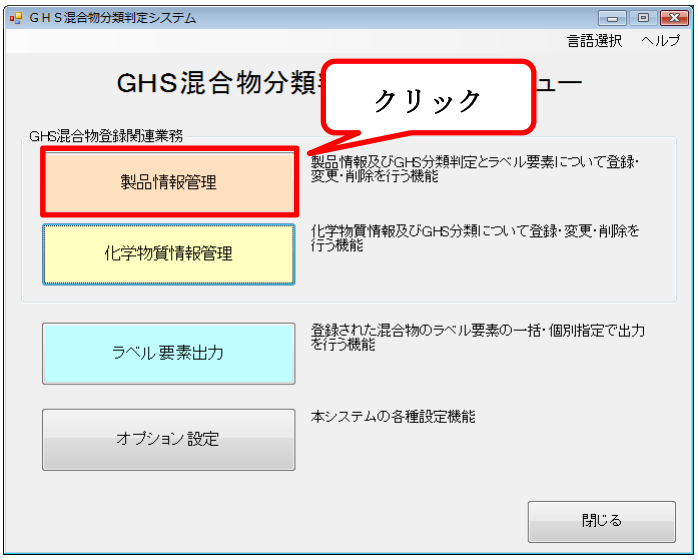


以上で、Excel で作成した製品情報インポート用ファイルがテキストファイルとして保存されます。

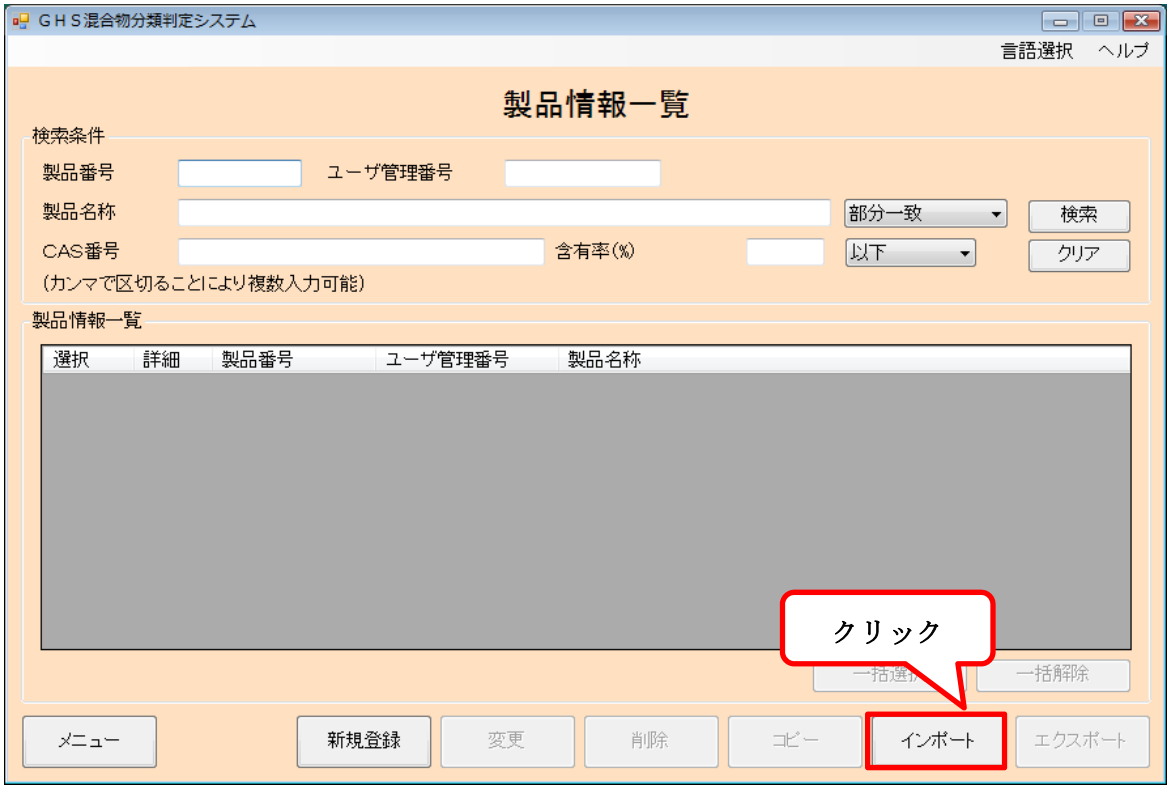
２．２．３．製品情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)のインポート

作成された製品情報インポート用のテキストファイルをシステムにインポートします。

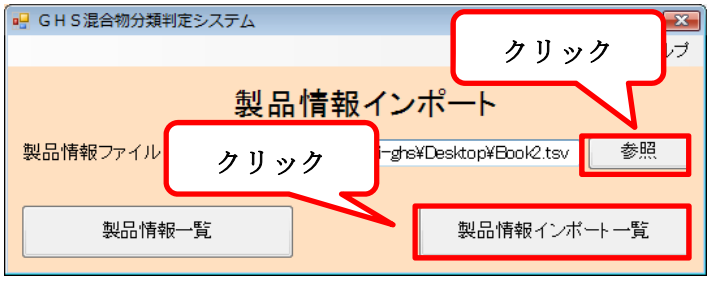
(1) 「GHS 混合物分類判定システム　メニュー」から「製品情報管理」をクリックして、製品情報画面を表示します。



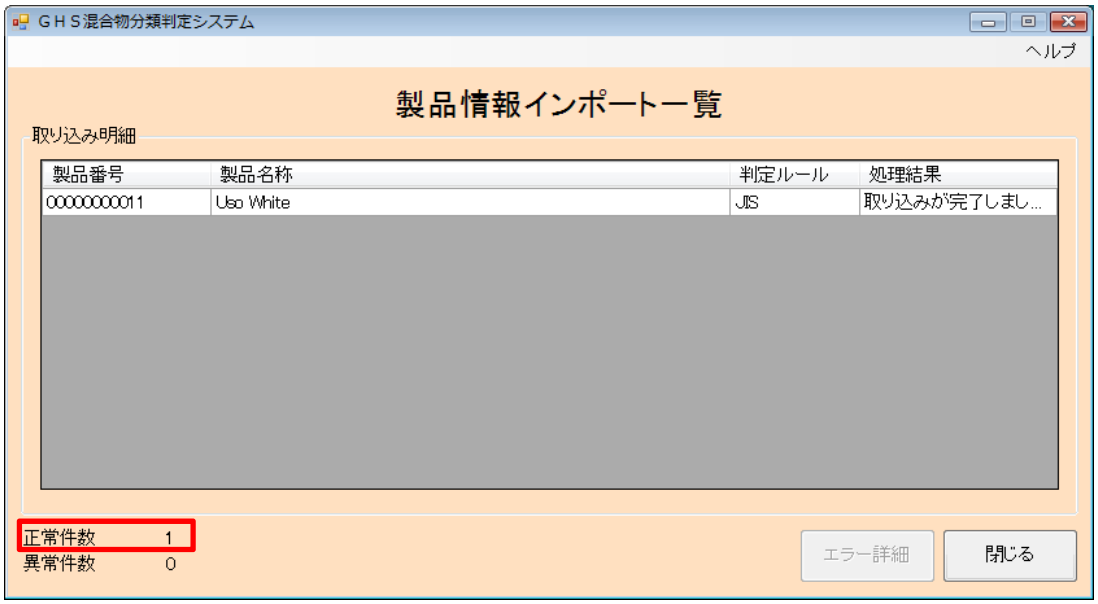
(2)「製品情報一覧」画面の「インポート」をクリックします。



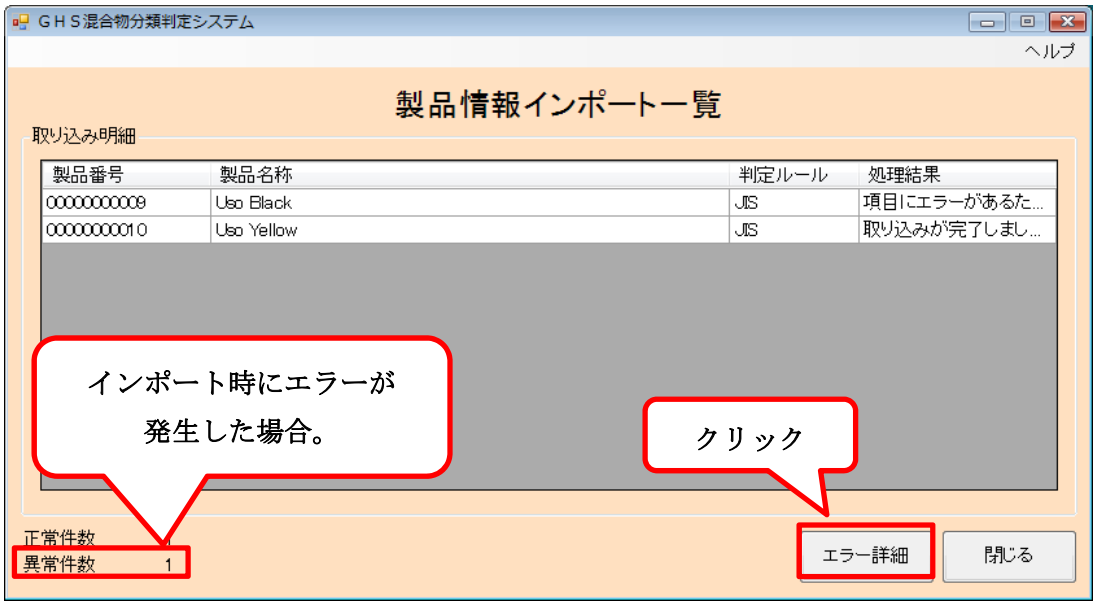
(3)製品情報インポート画面が表示されたら、「参照」をクリックして、作成したインポートファイルを指定して、「製品情報インポート一覧」をクリックします。



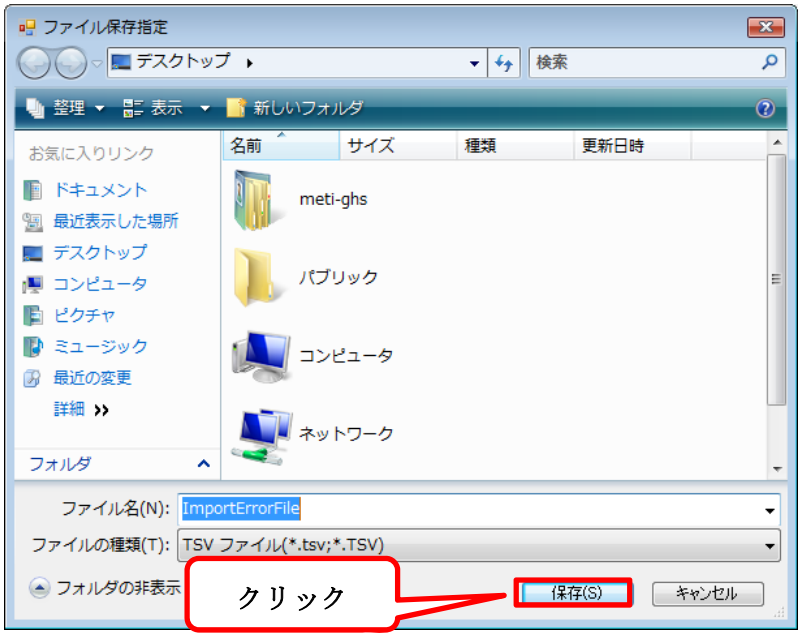
(4)「製品情報インポート一覧」が表示され、インポートの結果を確認します。
画面の「正常件数」で正常に取り込まれた件数が確認出来ます。



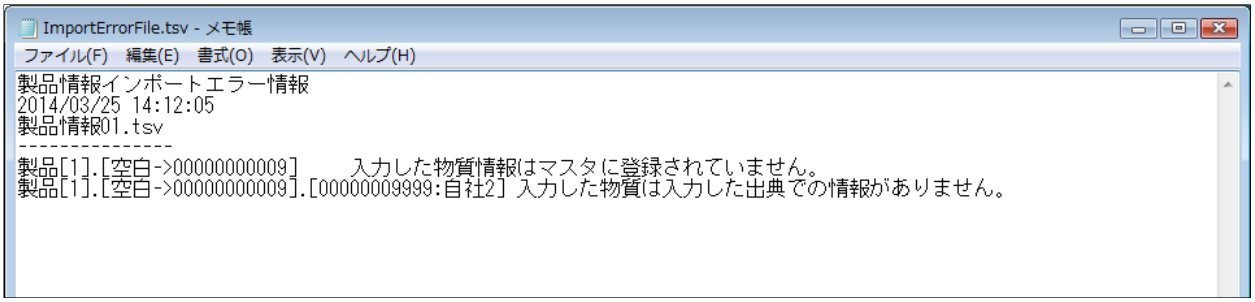
インポート時に「異常件数」が 1 件以上表示された場合、「エラー詳細」をクリックして、エラー情報ファイルを取得します。



エラーファイルの保存場所を指定して、「保存(S)」をクリックします。



保存されたファイルに、インポートエラーの詳細が記載されていますので、内容を確認の上、データの修正を行い、再度インポートを実施して下さい。

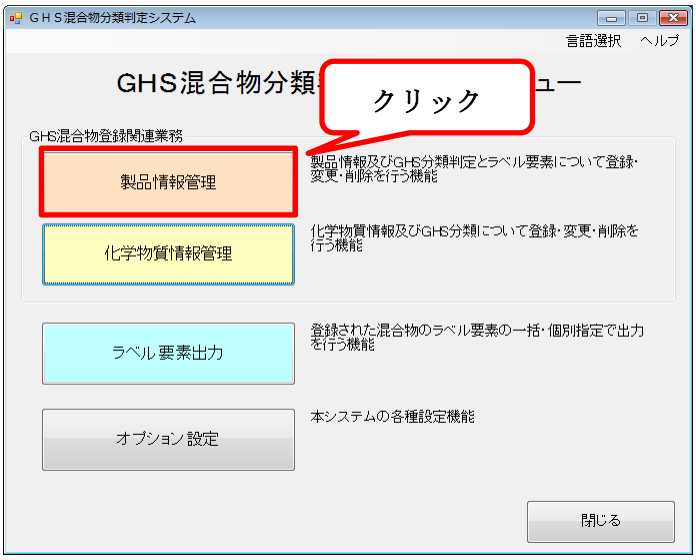


２．３．製品情報のエクスポート

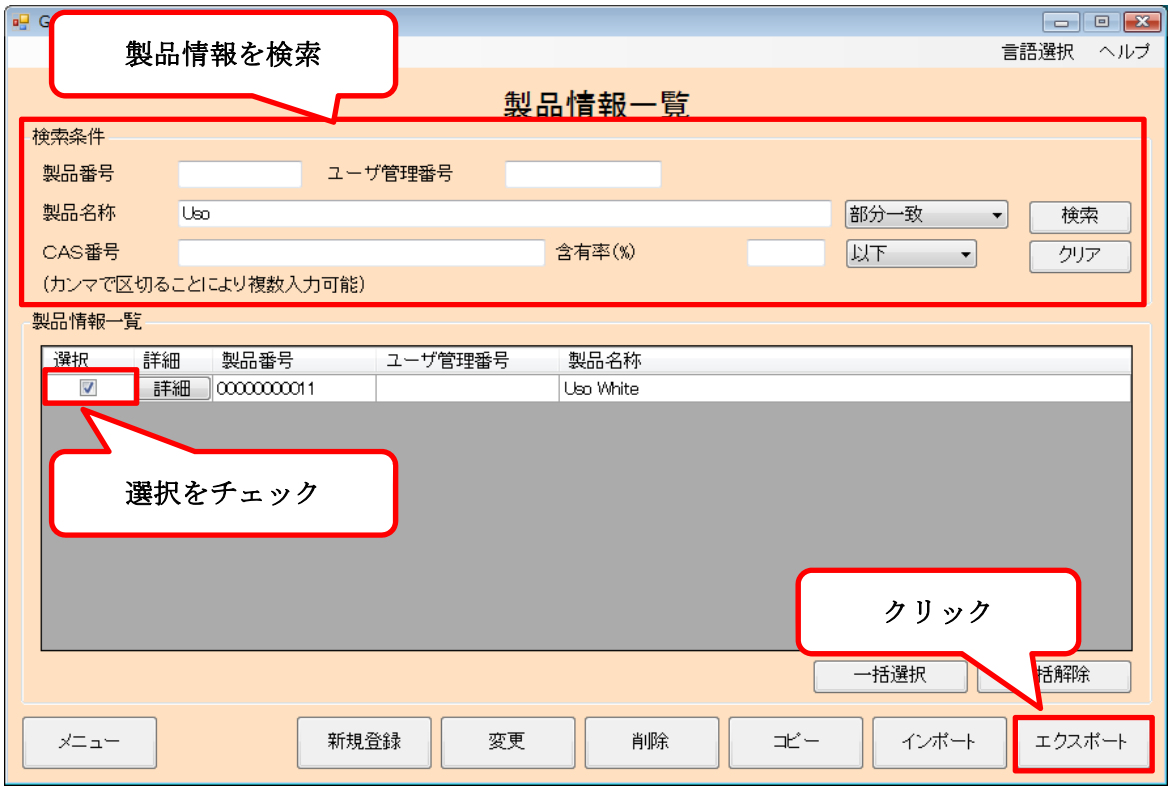
登録された製品情報をテキストファイル(TSV 形式)にエクスポートします。

また、エクスポートされたファイルを元に、新規で製品情報の登録や、既に登録された情報の変更を行う事も可能です。

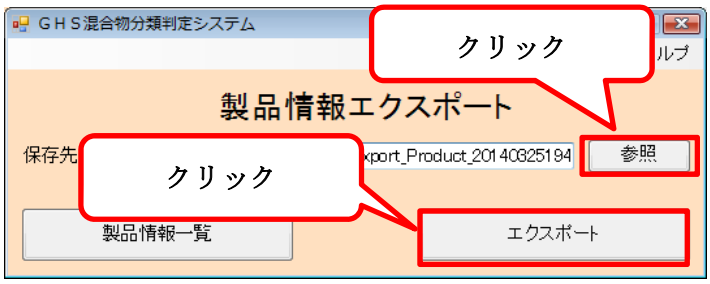
(1)「GHS 混合物分類判定システム　メニュー」から「製品情報管理」をクリックして、製品情報画面を表示します。



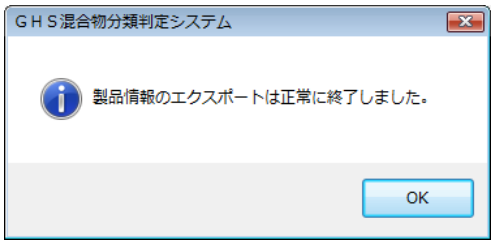
(2)エクスポートする製品情報を検索して、「選択」にチェックを入れ、「エクスポート」をクリックします。



(3)「参照」をクリックして、ファイルの保存先を指定します。



正常にエクスポートされるとメッセージが表示されます。



エクスポートされたファイルには、対象の製品情報が「分類実行」済の場合、判定ルール「JIS」「UN」の 2 パターンずつ出力されます。

出力されたテキストファイルのフォーマットは、以下の通りです。

製品情報エクスポートファイルのフォーマット

バージョン情報								
項目番号			データ部分					
大	中	小						
P	1	1	製品番号	ユーザ管理番号	製品名称	判定ルール		
P	2	1	国連番号	物理的状態	引火点	初留点	動粘性率	
P	3	1	備考 1	備考 2	備考 3	備考 4		
S	1	1	物質番号	ＣＡＳ番号	化学物質名称	含有率	出典	
S	2	1	物質番号	ＣＡＳ番号	化学物質名称	含有率	出典	
S	3	1	物質番号	ＣＡＳ番号	化学物質名称	含有率	出典	
D	1	1	爆発物	分類できない。	分類根拠 1	分類根拠 2	…	
D	2	1	可燃性又は引火性ガス	区分 1	分類根拠 1			
:	:		:					
D	16	1	金属腐食性	区分 1	分類根拠 1			
H	1	1	急性毒性（経口）	区分 2	分類根拠 1			
H	2	1	急性毒性（経皮）	分類できない。	分類根拠 1			
:	:	:	:					
H	13	1	生殖毒性	分類できない	分類根拠 1			
H	13	2	生殖毒性（授乳影響）	授乳に対する..	分類根拠 1			
H	14	1	標的臓器単回ばく露	区分あり	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	14	2	標的臓器単回ばく露	区分 1	臓器種	ばく露経路		
H	14	3	標的臓器単回ばく露	区分 1	臓器種 2	ばく露経路 2		
H	15	1	標的臓器反復ばく露	区分あり	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	15	2	標的臓器反復ばく露	区分 1	臓器種	ばく露経路		
H	15	3	標的臓器反復ばく露	区分 1	臓器種 2	ばく露経路 2		
H	16	1	吸引性呼吸器有害性	区分 1	分類根拠 1			
E	1	1	水生環境有害性（急性）	区分 1	分類根拠 1			
E	2	1	水生環境有害性（長期間）	区分 1	分類根拠 1			
E	3	1	オゾン層への有害性	区分 1	分類根拠 1			

製品を分類実行していた場合は、エクスポートファイルに、分類結果も含まれます。

■項目番号

大：分類実行を行っている場合のみ表示されます。

P：製品基本情報

S：製品組成情報

D：物理化学的危険性　分類結果

H：健康有害性　分類結果

E：環境有害性　分類結果

中：大項目が「P」の場合は、1～3 が固定です。

大項目が「S」の場合は、製品組成の数に合わせて 1 から連番で表示されます。

大項目が「D」「H」「E」の場合は、番号と有害性項目がセットになっています。それぞれの項目に対応した番号で表示されます。

小：「特定標的臓器毒性（単回・反復）」で区分がある場合、区分がつく臓器種・ばく露経路の数だけ「2」から順番に表示されます。

■データ部分

分類結果項目が追加されます。

有害性項目	：	GHS 分類の有害性項目が表示されます。
分類区分	：	各有害性項目に対する分類結果の区分が表示されます。
分類根拠 1～n	：	分類結果に対する、分類根拠が表示されます。 複数行ある場合は、各行毎に、１から順に表示されます。
特定標的臓器項目	：	分類結果が「区分あり」の場合 １．小項目「1」に、「区分あり」と表示され、続けて分類根拠が表示されます。 ２．小項目「2」以降に、各区分が表示され、続けて臓器種、ばく露経路が表示されます。 ３．（区分が同一か否かにかかわらず、）標的臓器が複数ある場合は改行され、続けて区分、臓器種、ばく露経路が表示されます。 分類結果が「区分外」「分類できない」の場合 １．小項目「1」に、区分が表示され、続けて分類根拠が表示されます。

３．化学物質情報のインポート・エクスポート

本システムの製品の組成情報として使用する化学物質情報をテキストファイル(TSV 形式)にて、インポート、エクスポートを行う事ができます。インポート、エクスポートを使用することで、化学物質情報の新規登録、登録済みデータの更新を行う事ができます。

複数の化学物質のデータを Excel ファイル形式(１物質１行形式)で管理されている場合には、GHS 化学物質情報 TSV 変換ツールをご利用ください。

操作方法については、GHS 化学物質情報 TSV 変換ツールの取扱説明書をご参照ください。

３．１．化学物質情報のインポートの流れ

(1)化学物質情報の物質番号をチェック。(化学物質情報の更新を行う場合)

(2)化学物質情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)の作成。

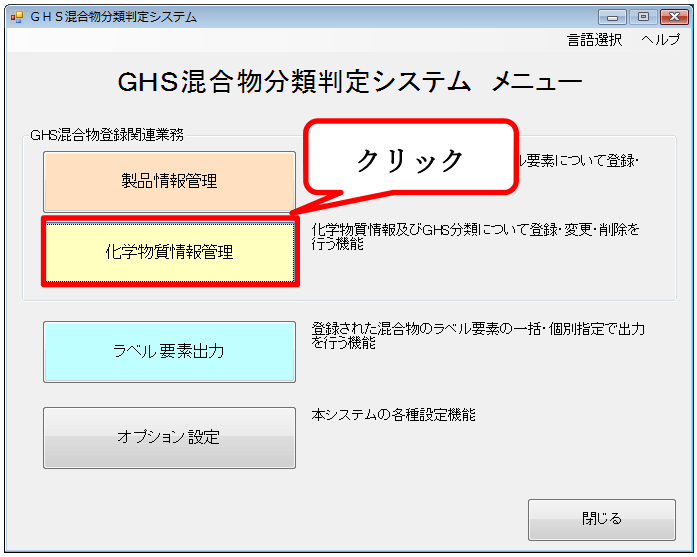
(3)化学物質情報インポート用のテキストファイルのインポート。

３．２．化学物質情報のインポート

３．２．１．化学物質情報の物質番号のチェック（化学物質情報の更新を行う場合）

新規で、化学物質情報を登録する場合は、本項のチェックは不要です。３．２．２．から行って下さい。

(1)「GHS 混合物分類判定システム　メニュー」から「化学物質情報管理」をクリックして、化学物質情報画面を表示します。



＊ 複数化学物質を同時に入力する場合

大項目「P」～大項目「T」を繰り返し入力します。

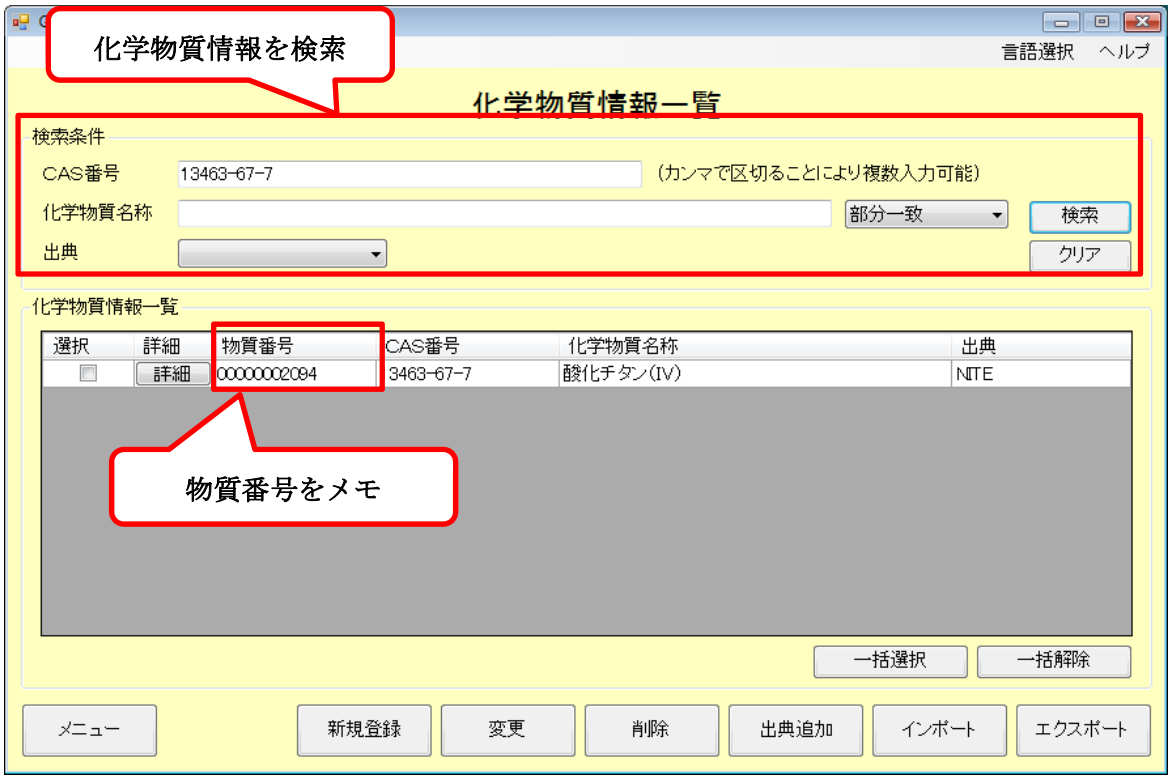
＊ 同一化学物質を異なる出典で登録する場合

「P－4－1 出典」以降を繰り返し入力します。

＊ GHS 化学物質情報 TSV 変換ツールを使用した場合

備考欄、分類根拠、及び特定標的臓器毒性については入力制限がありますので、制限を超える部分については、化学物質情報インポート用テキストファイルに変換した後、手入力していただく必要があります。また、不要な空欄が生じた場合には削除してください。

(2)製品情報の組成に含む化学物質を検索し、「物質番号」をメモします。



３．２．２．化学物質情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)の作成

化学物質情報インポート用のテキストファイルは、Excel を利用して作成すると便利です。本書では、Excel を使用した作成方法にて説明いたします。

化学物質情報インポート用のテキストファイルは、以下のフォーマットに従って作成します。
製品情報インポート用テキストファイルと比べて、GHS 分類結果、毒性値の情報が追加されています。

化学物質情報インポート用テキストファイルのフォーマット

バージョン情報								
項目番号			データ部分 ※必須項目（必須項目以外は空欄可）					
大	中	小						
P※	1※	1※	物質番号	ＣＡＳ番号	物質名称※			
P	2	1	窒素等価係数	酸素等量係数	pH	可燃性・引火性ガス最大濃度	可燃性・引火性ガス最小濃度	
P	3	1	酸	塩基	無機塩類	アルデヒド類	フェノール類	界面活性剤、その他成分
P	4	1	出典※					
P	5	1	備考 1	備考 2	備考 3	備考 4		
D	1	1	爆発物	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	2	1	可燃性又は引火性ガス（化学的に不安定なガスを含む）	分類対象外	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	3	1	エアゾール	分類対象外	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	4	1	支燃性又は酸化性ガス	分類対象外	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	5	1	高圧ガス	分類対象外	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	6	1	引火性液体	区分 2	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	7	1	可燃性固体	分類対象外	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	8	1	自己反応性化学品	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	9	1	自然発火性液体	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	10	1	自然発火性固体	分類対象外	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	11	1	自己発熱性化学品	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	12	1	水反応可燃性化学品	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	13	1	酸化性液体	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	14	1	酸化性固体	分類対象外	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	15	1	有機過酸化物	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
D	16	1	金属腐食性物質	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		

H	1	1	急性毒性（経口）	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	2	1	急性毒性（経皮）	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	3	1	急性毒性（吸入：気体）	分類対象外	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	4	1	急性毒性（吸入：蒸気）	区分 4	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	5	1	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	6	1	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分 2	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	7	1	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分 2B	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	8	1	呼吸器感作性	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	9	1	皮膚感作性	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	10	1	生殖細胞変異原性	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	11	1	発がん性	区分 2	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	12	1	生殖毒性	区分 1A	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	13	1	生殖毒性・授乳影響	授乳に対する…	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	14	1	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分あり	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	14	2	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1	臓器種	ばく露経路		
H	14	3	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1	臓器種 2	ばく露経路 2		
H	15	1	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分あり	分類根拠 1	分類根拠 2		
H	15	2	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1	臓器種	ばく露経路		
H	15	3	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1	臓器種 2	ばく露経路 2		
H	16	1	吸引性呼吸器有害性	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
E	1	1	水生環境有害性（急性）	区分 2	分類根拠 1	分類根拠 2		
E	2	1	水生環境有害性（長期間）	区分 3	分類根拠 1	分類根拠 2		
E	3	1	オゾン層への有害性	分類できない	分類根拠 1	分類根拠 2		
T	1	1	毒性値：急性毒性（経口）	毒性値				
T	2	1	毒性値：急性毒性（経皮）	毒性値				
T	3	1	毒性値：急性毒性（吸	毒性値				

			入：気体)					
T	4	1	毒性値：急性毒性（吸入：蒸気）ppm	毒性値				
T	5	1	毒性値：急性毒性（吸入：蒸気）mg/L	毒性値				
T	6	1	毒性値：急性毒性（吸入：粉じん／ミスト)	毒性値				
T	7	1	毒性値：水生環境有害性（急性）LC50（魚類）	毒性値				
T	8	1	毒性値：水生環境有害性（急性）EC50（甲殻類）	毒性値				
T	9	1	毒性値：水生環境有害性（急性）EC50（藻類）	毒性値				
T	10	1	毒性値：水生環境有害性（急性）毒性乗率	毒性乗率				
T	11	1	毒性値：水生環境有害性(長期間)NOEC(魚類)	毒性値				
T	12	1	毒性値：水生環境有害性（長期間）NOEC(甲殻類)	毒性値				
T	13	1	毒性値：水生環境有害性(長期間)NOEC(藻類)	毒性値				
T	14	1	毒性値：水生環境有害性（長期間）急速分解性有無	急速分解性有無				
T	15	1	毒性値：水生環境有害性（長期間）毒性乗率	毒性乗率				

解説

■バージョン情報

インポートファイルのバージョン情報を半角数字で「1.0」を入力します。

■項目番号

データ部分を入力する場合は、必須入力になります。

大：情報の種別を表す記号を入力します。

P：化学物質基本情報

D：物理化学的危険性　分類結果

H：健康有害性　分類結果

E：環境有害性　分類結果

T：GHS 分類における毒性値

中：大項目が「P」の場合は、1～5 が固定です。
大項目が「D」「H」「E」「T」の場合は、番号と有害性項目がセットになっています。それぞれの項目に対応した番号を入力する必要があります。入力されていない番号の有害性項目は、区分が空欄のまま登録されます。

小：全ての項目において「1」から入力します。ただし、特定標的臓器で「区分あり」の場合、区分がつく臓器種・ばく露経路の数に合わせて「2」から連番を入力します。

■データ部分

物質番号	：	新規で登録する場合は、空欄とする。 登録済みの化学物質情報を更新する場合は、対象の物質番号を入力します。
CAS 番号	：	登録する CAS 番号を入力します。
物質名称	：	登録する化学物質名称を入力します。必須
窒素等価係数	：	半角数字(小数点可)で入力します。
酸素等量係数	：	半角数字(小数点可)で入力します。
pH		半角数字(小数点可)で入力します。
可燃性又は引火性ガス最大濃度	：	半角数字(小数点可)で入力します。
可燃性又は引火性ガス最小濃度	：	半角数字(小数点可)で入力します。
酸(ph≦2)	：	「該当」「非該当」のいずれかを入力します。 空欄の場合は「非該当」として登録されます。
塩基(ph≧11.5)	：	「該当」「非該当」のいずれかを入力します。 空欄の場合は「非該当」として登録されます。
無機塩類	：	「不明」「該当」「非該当」のいずれかを入力します。 空欄の場合は「不明」として登録されます。
アルデヒド類	：	「不明」「該当」「非該当」のいずれかを入力します。 空欄の場合は「不明」として登録されます。
フェノール類	：	「不明」「該当」「非該当」のいずれかを入力します。 空欄の場合は「不明」として登録されます。
界面活性剤、その他の成分	：	「不明」「該当」「非該当」のいずれかを入力します。 空欄の場合は「不明」として登録されます。
備考 1～4	：	化学物質基本情報の備考欄の内容を入力します。 改行毎に列を区切ります。※1～4 は、備考欄の行番号を指しています。

出典　：　本システムのオプション設定に登録されている出典を入力します。

■GHS 分類結果部分

有害性項目　：　GHS 分類の有害性項目名を入力します。

分類区分　：　各有害性項目に対する分類結果の区分を入力します。
区分の英数字は、半角英数字で入力します。
空欄の場合は、区分が空欄のまま登録されます。

分類根拠 1～n　：　分類結果に対する、分類根拠を入力します。
複数行ある場合は、各行毎に、１から順に入力します。

特定標的臓器項目　：　分類結果が「区分あり」の場合

１．小項目「1」に、「区分あり」と入力し、続けて分類根拠を入力します。

２．小項目「2」以降に、各区分を入力し、続けて臓器種、ばく露経路を入力します。
臓器種、ばく露経路については、付録「臓器種・ばく露経路一覧」から選択します。

３．区分が同一か否かにかかわらず、標的臓器が複数ある場合は改行され、続けて区分、臓器種、ばく露経路が表示されます。

分類結果が「区分外」「分類できない」の場合

１．小項目「1」に、区分を入力し、続けて分類根拠を入力します。

■毒性値部分

有害性項目	：	GHS 分類の有害性項目名を入力します。 空欄可
毒性値：急性毒性（経口）	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/kg」です。
毒性値：急性毒性（経皮）	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/kg」です。
毒性値：急性毒性（吸入：気体）	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「ppm」です。
毒性値：急性毒性（吸入：蒸気）ppm	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「ppm」です。
毒性値：急性毒性（吸入：蒸気）mg/L	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/L」です。
毒性値：急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/L」です。
毒性値：水生環境有害性（急性）LC50（魚類）	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/L」です。

毒性値：水生環境有害性（急性）EC50（甲殻類）	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/L」です。
毒性値：水生環境有害性（急性）EC50（藻類）	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/L」です。
毒性値：水生環境有害性（急性）毒性乗率	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。
毒性値：水生環境有害性（長期間）NOEC(魚類)	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/L」です。
毒性値：水生環境有害性（長期間）NOEC(甲殻類)	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/L」です。
毒性値：水生環境有害性（長期間）NOEC(藻類)	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。 数値の単位は、「mg/L」です。
毒性値：水生環境有害性（長期間）急速分解性有無	：	「不明」「有」「無」のいずれかを入力します。 空欄の場合は、「不明」として登録されます。
毒性値：水生環境有害性（長期間）毒性乗率	：	半角数字(小数点可)のみ入力します。

■「臓器種・ばく露経路一覧」

化学物質情報インポート用のテキストファイルにて、指定する臓器種、ばく露経路は、以下の一覧から選択して入力します。

○臓器種一覧

気道刺激性	関節	視覚系	消化器系	腎臓	骨格系
気管支	皮膚付属器	血液系	消化器	膀胱	骨
免疫	赤血球	呼吸器系	歯	生殖器	骨格
脳血管	神経系	血液	消化管	雄性生殖器	骨組織
口腔	神経	造血系	気道	精巣	骨関節
食道	中枢神経系	骨髄	胃	精巣付属器	全身毒性
腸管	中枢神経	免疫系	腸	上気道	全身症状
大腸	中枢神経性	リンパ系	小腸	前立腺	全身
歯・歯周組織	脳	胸腺	十二指腸	卵巣	鼻粘膜
歯周組織	末梢神経系	脾臓	唾液腺	子宮	血経
歯肉	自律神経系	細網内皮系	顎下腺	副生殖器	リンパ節
肝臓・胆嚢系	麻酔作用	循環器系	膵臓	内分泌系	鼻咽頭
肺	脳神経系	循環器	肝臓	下垂体	下部気道
生殖器系	視覚器	呼吸器	肝	甲状腺	喉頭
男性生殖器	眼	心血管系	胆嚢	副腎	気管
女性生殖器	視神経	心臓血管系	上部呼吸器	皮膚	脊髄
上皮小体	眼網膜	心臓	膵	毛（脱毛症）	末梢神経
皮膚・皮膚付属器	聴覚器	心筋	泌尿器	鼻腔	運動神経

体毛	聴覚	血管系	泌尿器系	筋肉	造血器
筋肉系	嗅覚器	血管	腎	骨格筋	

○ばく露経路

吸入
経皮
経口
(気体)吸入
(蒸気)吸入
(粉じん、ミスト)吸入

上記の各フォーマットに従った入力例(Excel)

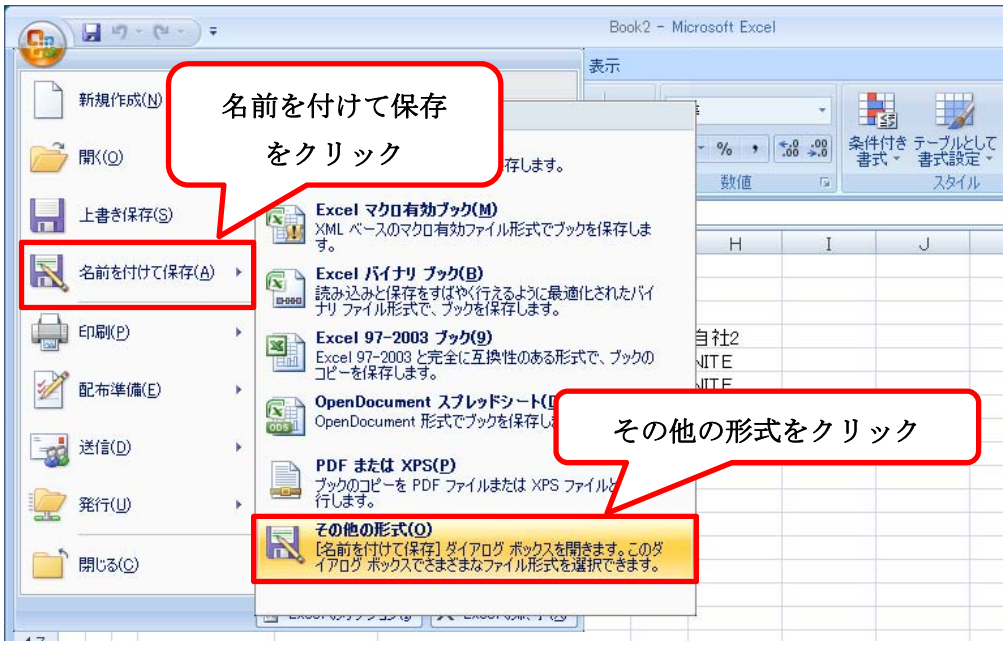
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	'1.0									
2	P	1	1		'50-00-0	ホルムアルデヒド				
3	P	2	1							
4	P	3	1	非該当	非該当	不明	不明	不明	不明	
5	P	4	1	自社						
6	P	5	1							
7	D	1	1	爆発物	分類対象外	分類実施日:H18.	使用マニュ	GHSの定義における気体である(ガス		
8	D	2	1	可燃性又は引火性ガス(化学的に	区分1	分類実施日:H18.	使用マニュ	ICSC(2004)による爆発限界下限値は		
9	:	:	:							
10	H	1	1	急性毒性(経口)	区分4	分類実施日:H18.	使用マニュ	ラットを用いた経口投与試験のLD50		
11	H	14	1	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分あり	分類実施日:H18.	使用マニュ	ヒトについては、「気道への刺激性」(		
12	H	14	2	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1	神経系	-			
13	:	:	:							
14	E	1	1	水生環境有害性(急性)	区分2	分類実施日:H18.	使用マニュ	魚類(ストライプトバス)の96時間LC50		
15	:	:	:							
16	T	1	1	毒性値:急性毒性(経口)	605					
17	:	:	:							
18	T	15	1	毒性値:水性環境有害性(長期間)	毒性乗率					
19										

【注意】

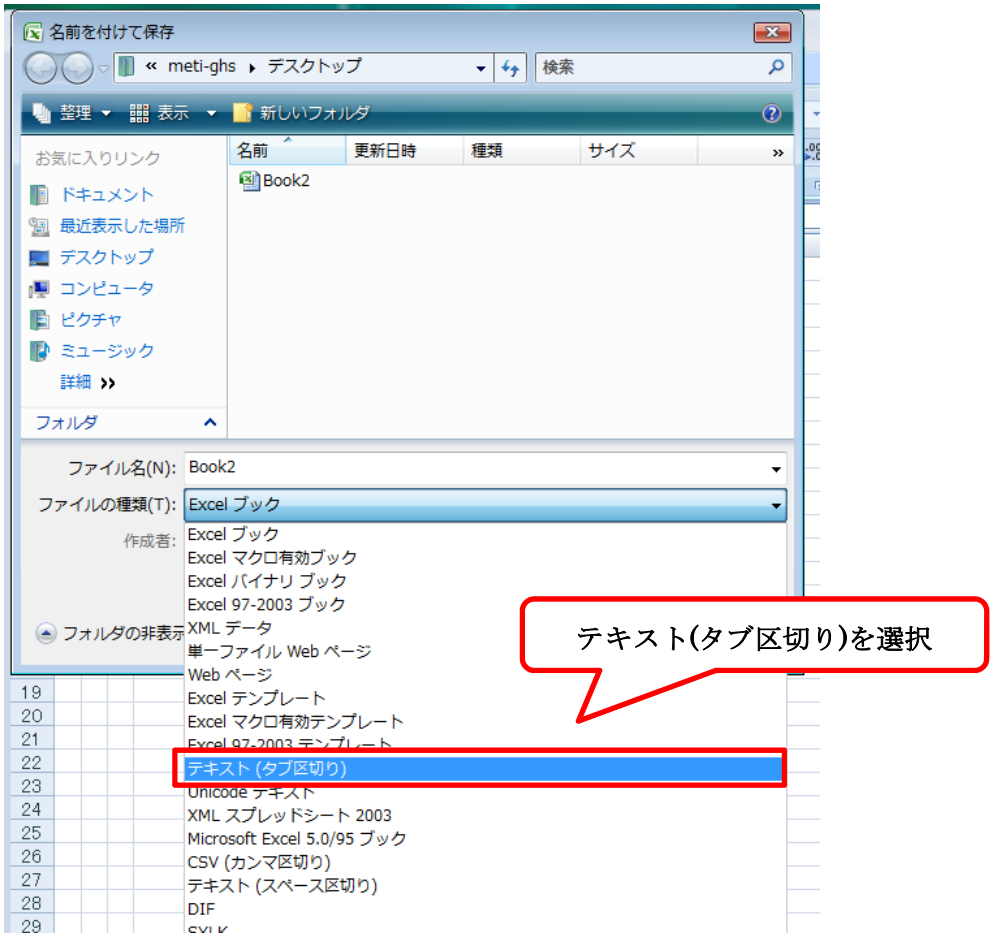
Excel で入力する場合、「バージョン情報」「製品番号」「物質番号」「CAS 番号」が自動変換される場合があるので、先頭にシングルクォート「'」を付与して入力する必要があります。

Excel で作成した製品情報をテキストファイル(TSV 形式)として、保存します。

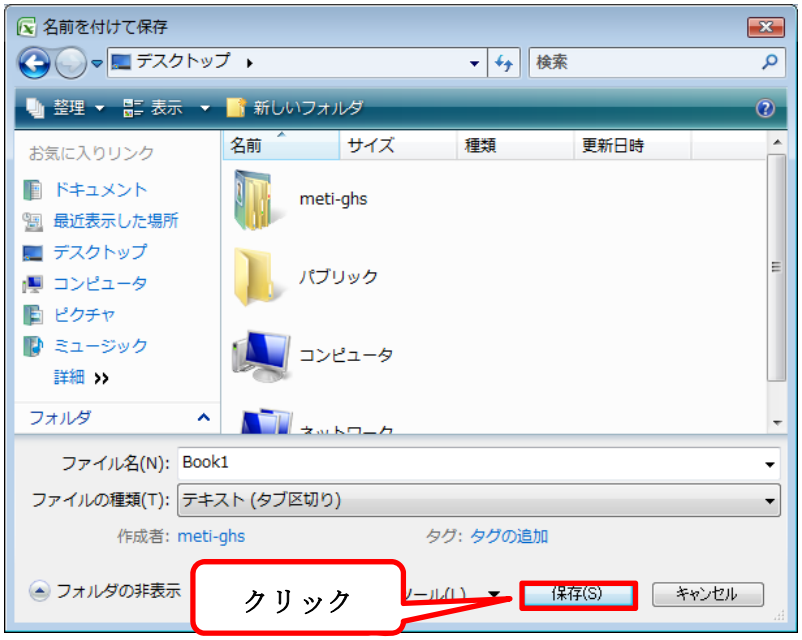
「名前を付けて保存」→「その他の形式」をクリックします。(Excel 2007)



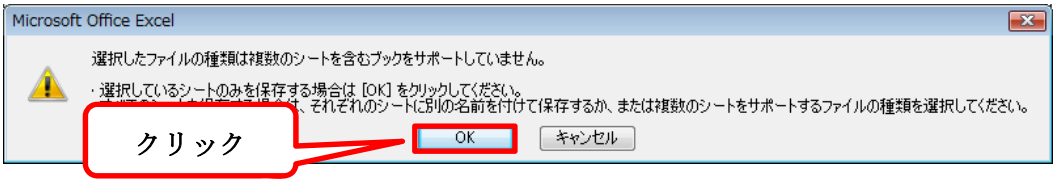
「ファイルの種類」のタブから「テキスト(タブ区切り)」を選択します。



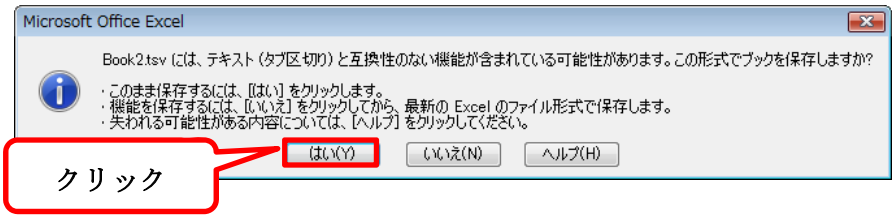
ファイル名の指定して「保存(S)」をクリックします。



ブックをサポートしていない旨のメッセージが表示されますが、「OK」をクリックします。



続けて、互換性が無い旨のメッセージが表示されますが、「はい(Y)」をクリックして保存します。

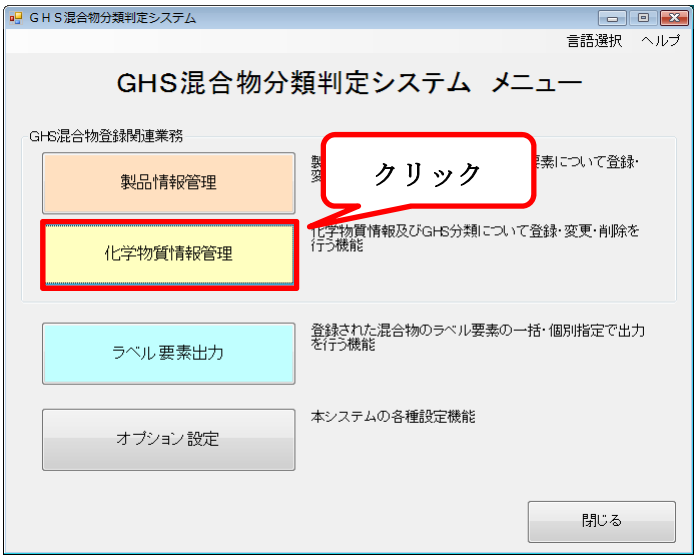


以上で、Excel で作成した化学物質情報インポート用ファイルがテキストファイルとして保存されます。

３．２．３．化学物質情報インポート用のテキストファイルのインポート

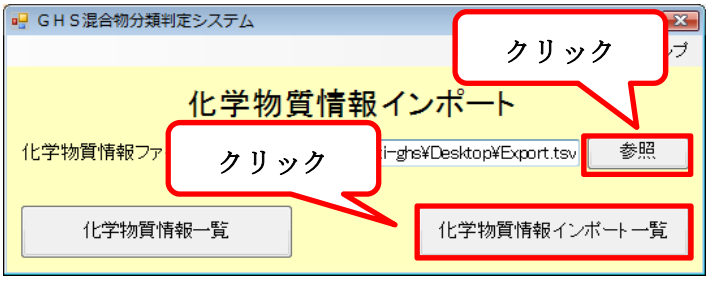
作成された化学物質情報インポート用のテキストファイルをシステムにインポートします。

(1) 「GHS 混合物分類判定システム　メニュー」から「化学物質情報管理」をクリックして、化学物質情報画面を表示します。

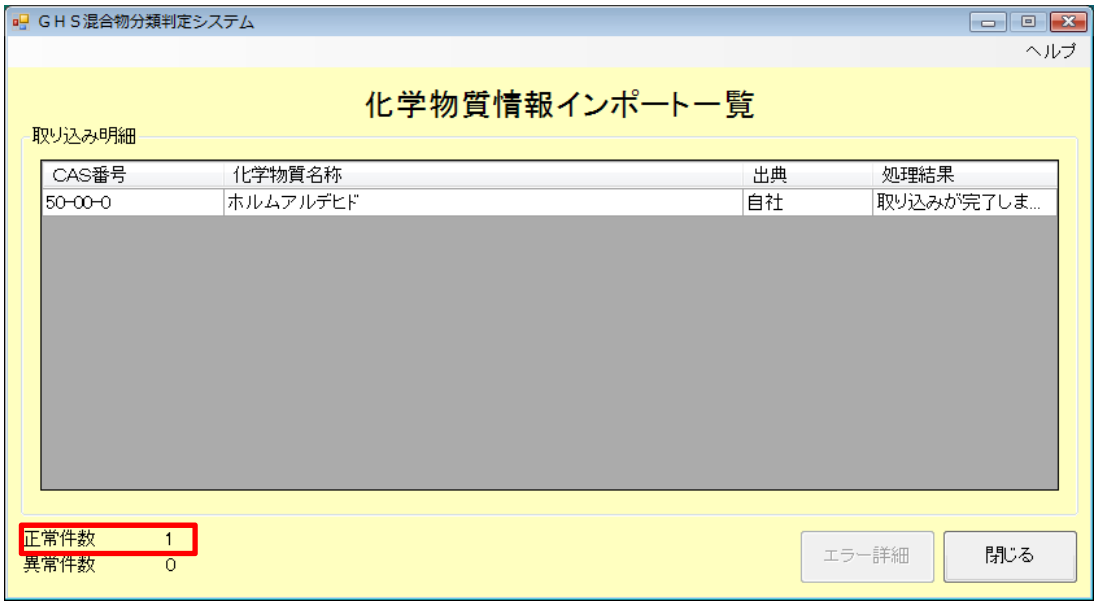


(2)「化学物質情報一覧」画面の「インポート」をクリックします。

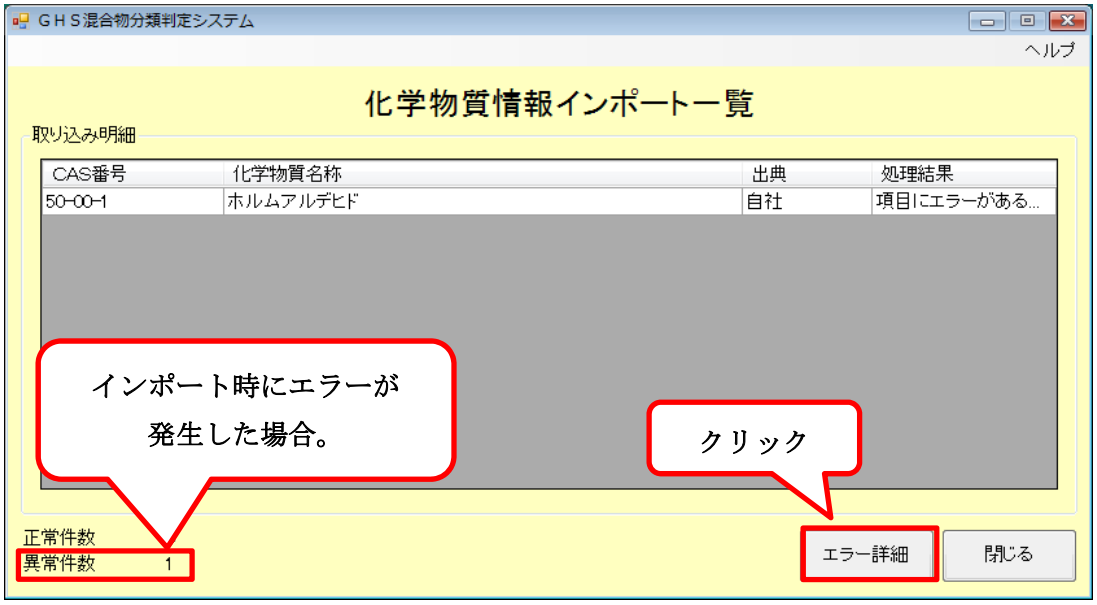
(3)化学物質情報インポート画面が表示されたら、「参照」をクリックして、作成したインポートファイルを指定して、「化学物質情報インポート一覧」をクリックします。



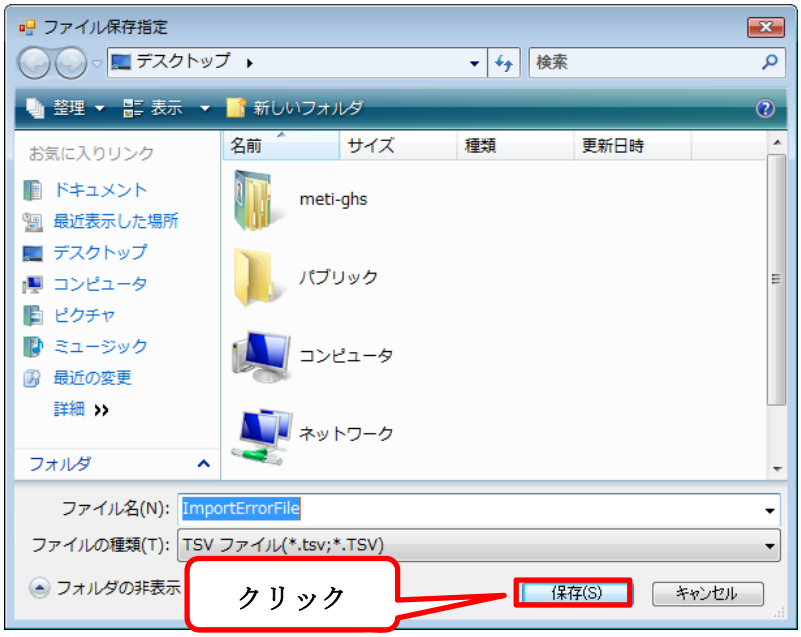
(4)「化学物質情報インポート一覧」が表示され、インポートの結果を確認します。
画面の「正常件数」で正常に取り込まれた件数が確認出来ます。



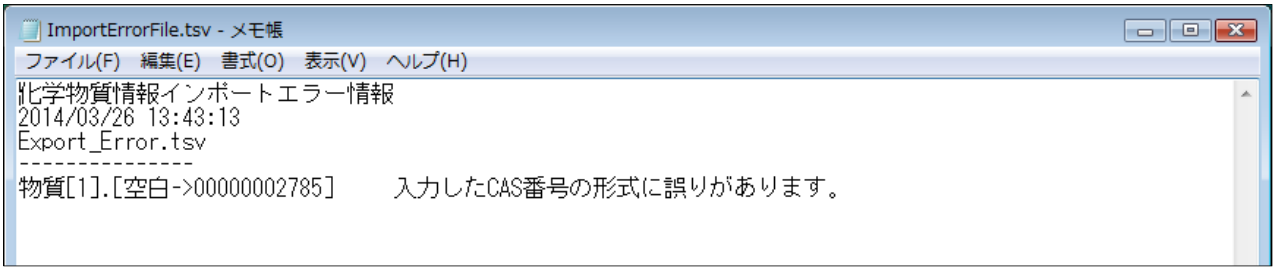
インポート時に「異常件数」が 1 件以上表示された場合、「エラー詳細」をクリックして、エラー情報ファイルを取得します。



エラーファイルの保存場所を指定して、「保存(S)」をクリックします。



保存されたファイルに、インポートエラーの詳細が記載されていますので、内容を確認の上、データの修正を行い、再度インポートを実施して下さい。

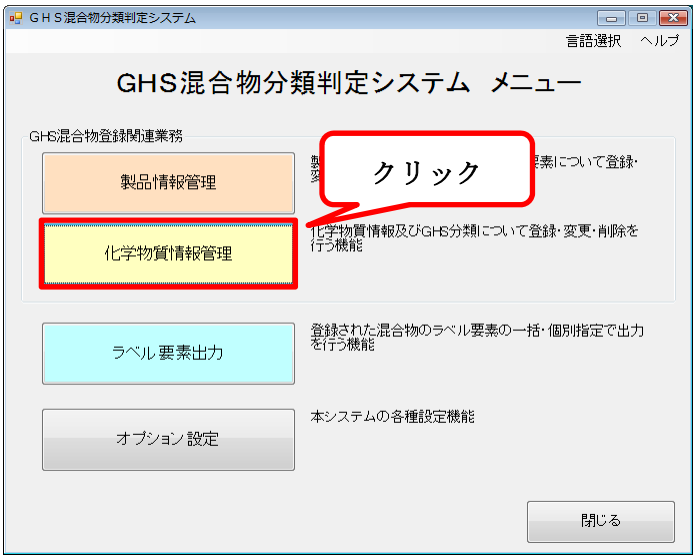


３．３．化学物質情報のエクスポート

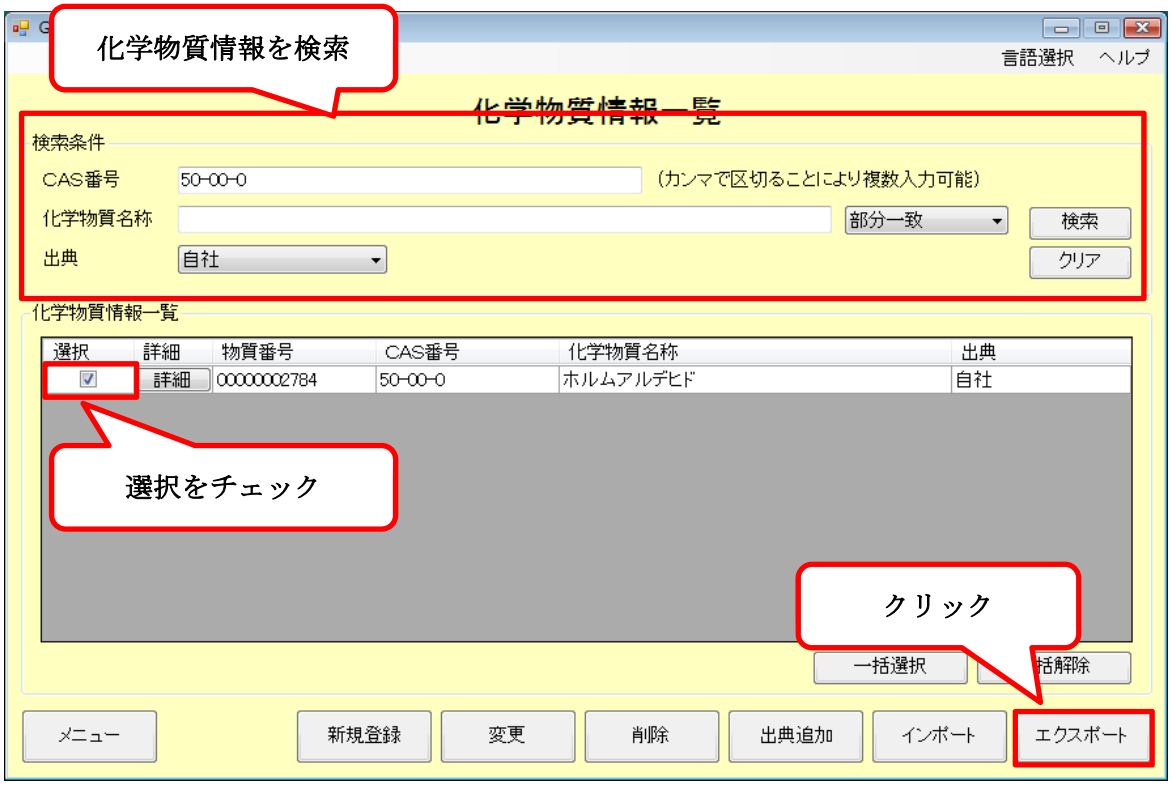
登録された化学物質情報をテキストファイル(TSV 形式)にエクスポートします。

また、エクスポートされたファイルを元に、新規で化学物質情報の登録や、既に登録された情報の変更を行う事も可能です。

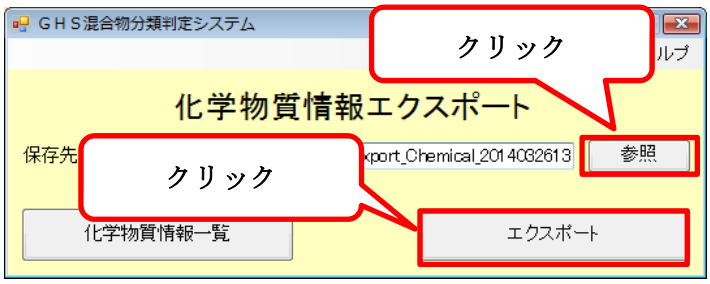
(1)「GHS 混合物分類判定システム　メニュー」から「化学物質情報管理」をクリックして、化学物質情報画面を表示します。



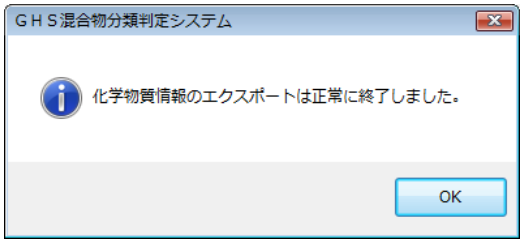
(2)エクスポートする化学物質情報を検索して、「選択」にチェックを入れ、「エクスポート」をクリックします。



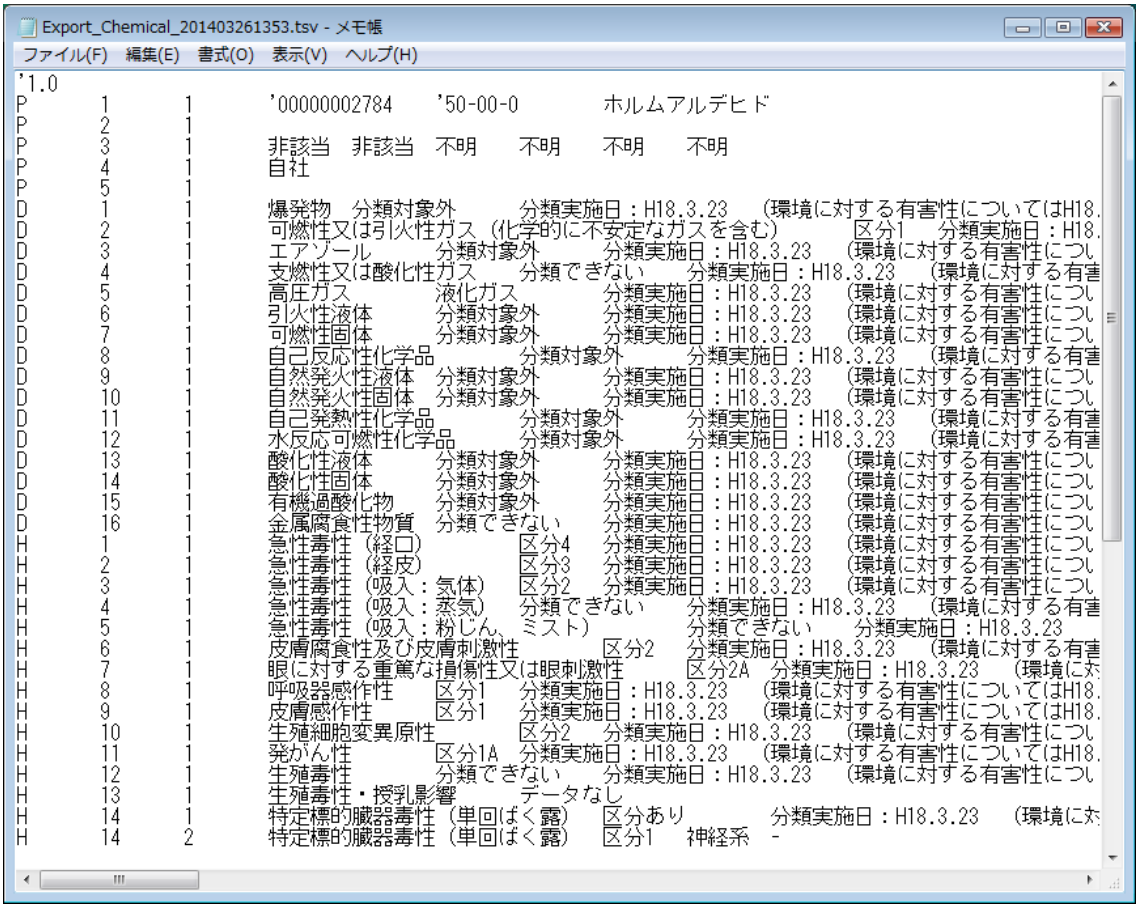
(3)「参照」をクリックして、ファイルの保存先を指定します。



正常にエクスポートされるとメッセージが表示されます。



エクスポートされたファイル



エクスポートされたファイルのフォーマットは、化学物質情報インポート用テキストファイルのフォーマットと同じです。詳細は、「３．２．２．化学物質情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)の作成」を参照して下さい。

４．製品情報エクスポート結果を化学物質情報にインポート

本システムを使って得られた混合物の分類結果を、別の混合物の１成分として利用することが可能です。その場合は、製品情報のエクスポートし、そのファイルを化学物質情報インポート用のテキストファイルに書き換え、インポートすることで対応できます。

以下に、製品情報のエクスポートファイルの編集方法を行単位に示します。

項目の詳細は「３．２．２化学物質情報インポート用のテキストファイル(TSV 形式)の作成」を参照してください。

製品情報エクスポートファイルの編集項目一覧

<table>
<tr><td colspan="5">バージョン情報</td></tr>
<tr><td colspan="3">項目番号</td><td colspan="2" rowspan="2">データ部分</td></tr>
<tr><td>大</td><td>中</td><td>小</td></tr>
<tr><td>P</td><td>1</td><td>1</td><td colspan="2">製品情報をテキストファイルとしてエクスポートし、化学物質情報インポート用テキストファイルの内容に合うように書き換えます。
物質番号を指定しなければ新規物質として登録されます。</td></tr>
<tr><td>P</td><td>2</td><td>1</td><td colspan="2">製品情報をテキストファイルとしてエクスポートし、化学物質情報インポート用テキストファイルの内容に書き換えます。</td></tr>
<tr><td>P</td><td>3</td><td>1</td><td colspan="2">製品情報をテキストファイルとしてエクスポートし、化学物質情報インポート用テキストファイルの内容に書き換えます。</td></tr>
<tr><td>P</td><td>4</td><td>1</td><td colspan="2">１行追加し、「出典」を追加します。</td></tr>
<tr><td>P</td><td>5</td><td>1</td><td colspan="2">必要であれば１行追加し、「備考」を追加します。また、省略をすることも可能です。</td></tr>
<tr><td>S</td><td></td><td></td><td colspan="2">大項目の「S」はすべて削除してください。</td></tr>
<tr><td>D</td><td></td><td></td><td colspan="2" rowspan="3">大項目が「D」「H」「E」（GHS 分類）のデータは編集する必要はありません。</td></tr>
<tr><td>H</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>E</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>T</td><td>1</td><td>1</td><td>毒性値：急性毒性（経口）</td><td rowspan="7">製品情報をテキストファイルとしてエクスポートした場合、記載がないため、混合物そのものの試験結果等があれば、追加してください。</td></tr>
<tr><td>T</td><td>2</td><td>1</td><td>毒性値：急性毒性（経皮）</td></tr>
<tr><td>T</td><td>3</td><td>1</td><td>毒性値：急性毒性（吸入：気体）</td></tr>
<tr><td>T</td><td>4</td><td>1</td><td>毒性値：急性毒性（吸入：蒸気）ppm</td></tr>
<tr><td>T</td><td>5</td><td>1</td><td>毒性値：急性毒性（吸入：蒸気）mg/L</td></tr>
<tr><td>T</td><td>6</td><td>1</td><td>毒性値：急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）</td></tr>
<tr><td>T</td><td>7</td><td>1</td><td>毒性値：水生環境有害性（急性）LC50（魚類）</td></tr>
</table>

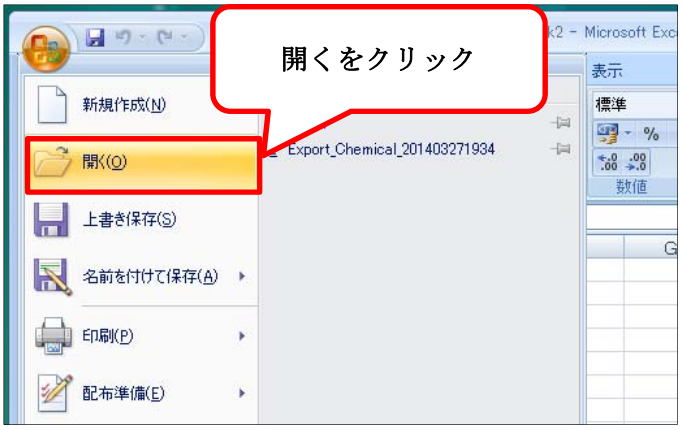
（次ページに続く）

（前ページから）

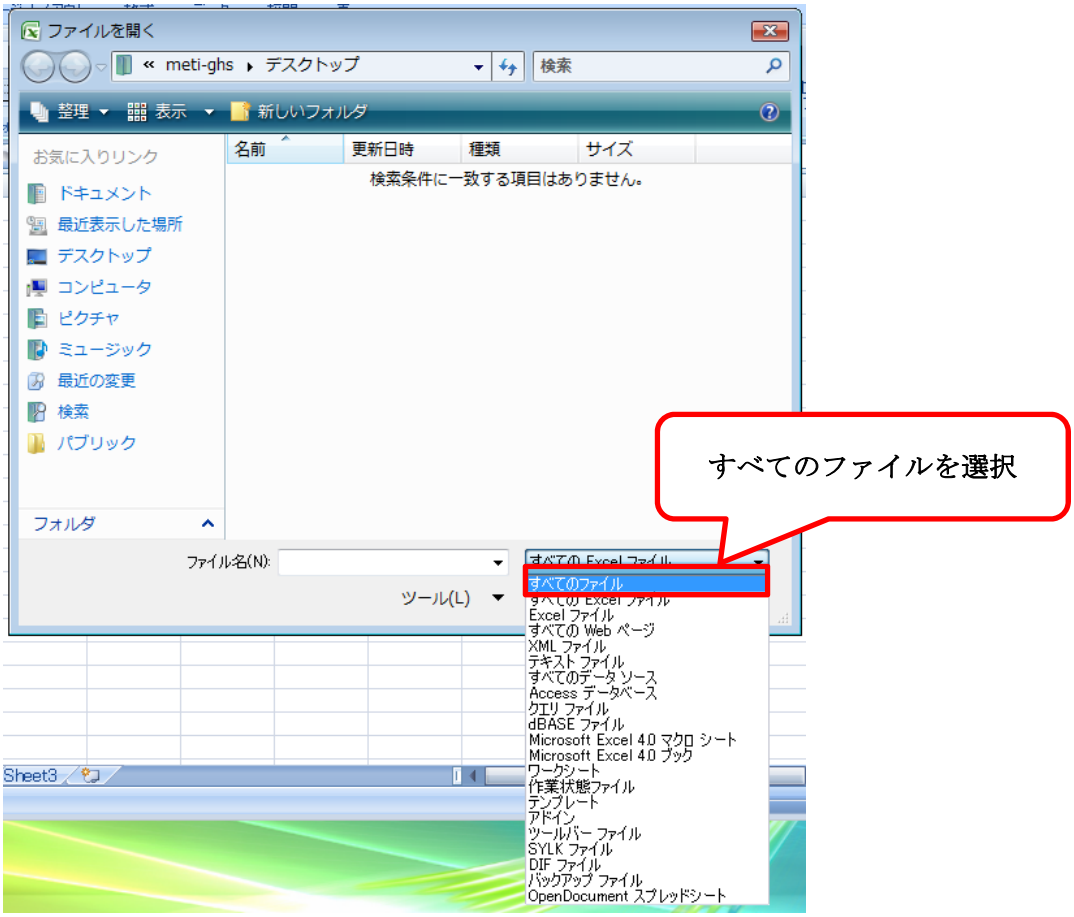
項目番号			データ部分	
大	中	小		
T	8	1	毒性値：水生環境有害性（急性）EC50（甲殻類）	製品情報をテキストファイルとしてエクスポートした場合、記載がないため、混合物そのものの試験結果等があれば、追加してください。
T	9	1	毒性値：水生環境有害性（急性）EC50（藻類）	
T	10	1	毒性値：水生環境有害性（急性）毒性乗率	
T	11	1	毒性値：水生環境有害性（長期間）NOEC(魚類)	
T	12	1	毒性値：水生環境有害性（長期間）NOEC(甲殻類)	
T	13	1	毒性値：水生環境有害性（長期間）NOEC(藻類)	
T	14	1	毒性値：水生環境有害性（長期間)急速分解性有無	
T	15	1	毒性値：水生環境有害性（長期間）毒性乗率	

【参考】エスクポートされたファイルを Excel で編集する方法

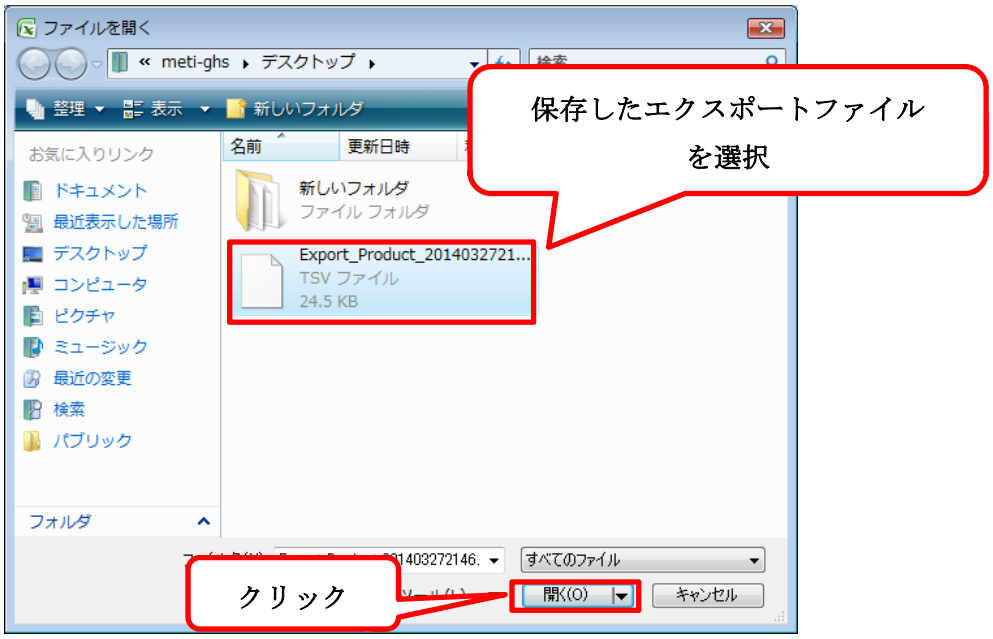
(1)「開く」をクリックします。



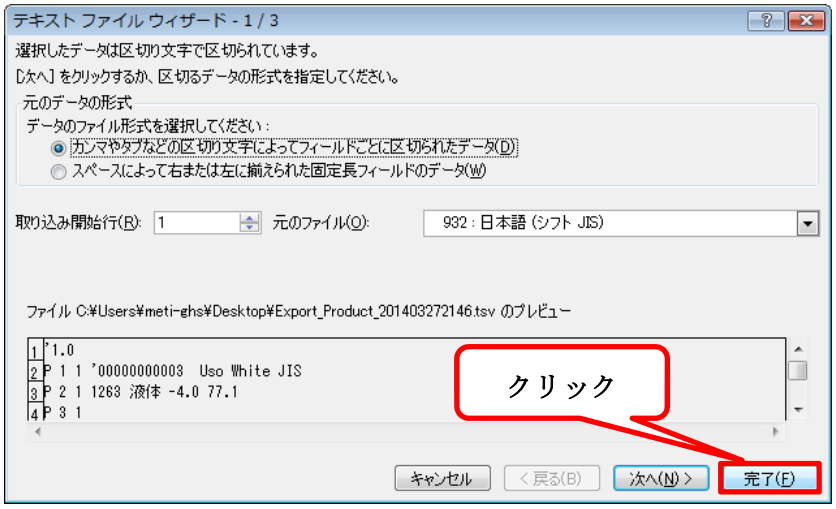
(2)ファイルの形式を「すべてのファイル」を選択します。



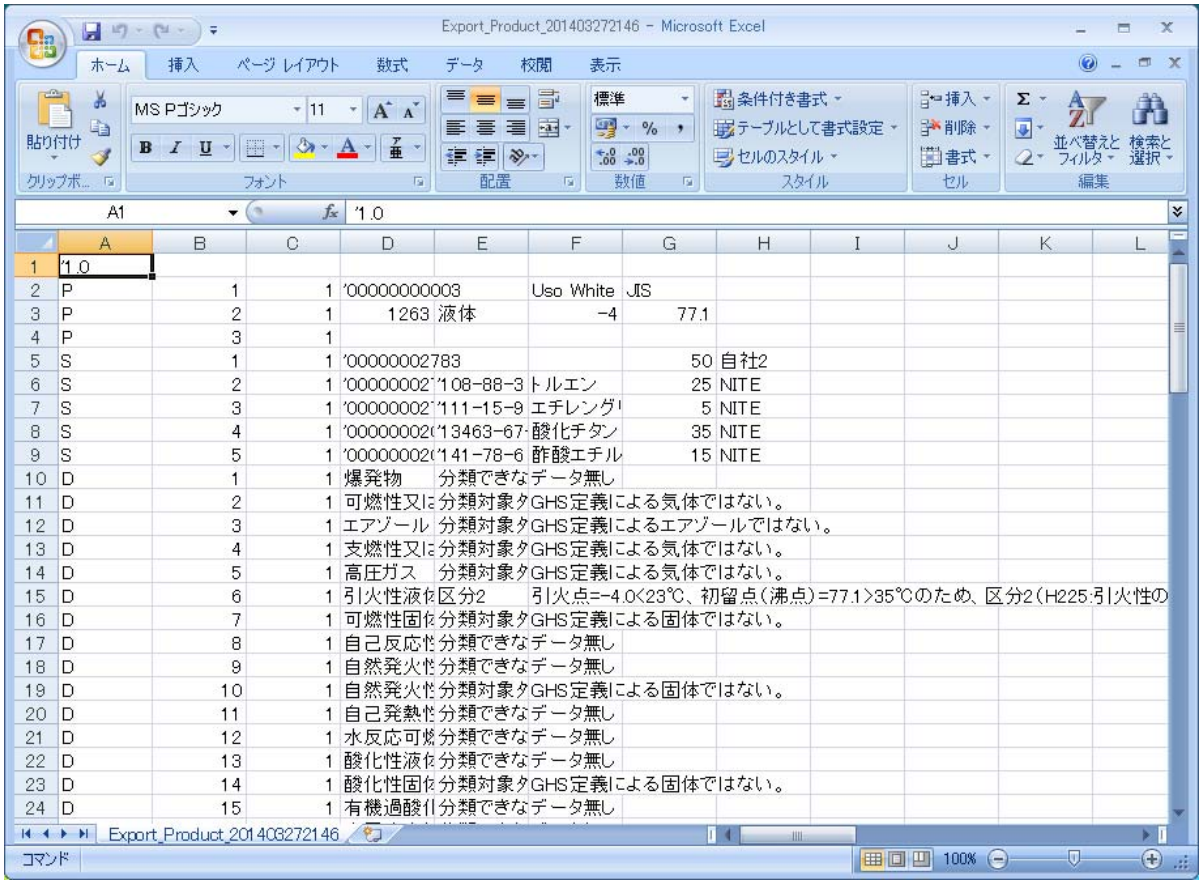
(3)保存したエクスポートファイル(TSV 形式)を選択して、「開く」をクリックします。



(4)テキストファイルウィザードが表示されたら「完了(F)」をクリックします。



(5)Excel でテキストを編集可能になります。



(6)編集後、保存する際に、互換性が無い旨のメッセージが表示されますが、「はい(Y)」をクリックして保存します。